

1 ルミ君は地球人ちゃんの素敵なお主人様

登場人物

【ルミルルス】

ケモ系宇宙人。地球人と言えば二十代後半くらいの雰囲気。

人類は全く対抗できないほどの技術力を有している種族。

最近彼の星では、地球にいる地球人をペットにするのが流行し始めていた。

流行ものが好きなルミルルスは、さつそく一人のメス（ヒロイン）を地球から捕獲してきて、可愛がることにする。

地球人を同等な種族とは思っておらず、ネコちゃんを可愛がる感じでヒロインに接する。

ヒロインからルミくんって呼ばれたい。

全体的に教育番組のお兄さんみたいなテンション。

精液多い。

【異星外来種の管理官】

他の星からの動物の持ち込みを管理する人。

特に高い知性を持つ外来種の持ち込みには厳しい審査や面倒くさい登録が必要。

地球を滅ぼすにあたって「絶滅種になる前に地球人連れてきて飼育したい」という要望が多くてやや疲れている。ルミにペット屋さん扱いされてイライラ。

【ヒロイン】

地球からいきなり知らん宇宙人のもとで飼育されることになった、非常に不幸な女性。

地球人なのでテランと名付けられる。

自分の境遇を受け入れられておらず、ルミルルスの“溺愛”を必死に拒む。

●トラック1 おむかえ

3 宇宙的な存在によってヒロインが拉致される導入トラック。
4 分かりやすく状況を説明するため、ルミともう一人のペット管理局的な存在によって会話劇
5 を進行する。

6 場所：外

7 時間：夜

8 SE:ヒロインの足音

9
10
11
12 【仕事終わり、人気のない道を歩くヒロイン。そこを待ち伏せしていたルミルフスが、管理
13 官に「あの子を捕獲してほしい」と伝える】

14 【9】

15 ルミ「はしゃいで あ、来た！ 来たよ、ペット屋さん！ ほら、あの子！

16 あの子が欲しいんだ……！ よかったあ、また見つけられて。

17 この辺に巢があると思ったんだよね」

18 【9】

19 管理官「静かに……！ 翻訳機をオンにしたまま大騒ぎしないでください……！

20 地球人のメスは警戒心が強いんですから、警戒してにげられますよ」

21 ルミ「ああ、ごめん。興奮しちゃって……本当にかわいいなあ。

22 ほら、捕獲してよ。はやくはやく……！ 逃げちゃう前に……！」

23 【9から13へ】

24 管理官「だから、無傷で捕獲するためにはそれなりの段取りが……

25 あ、待て！」

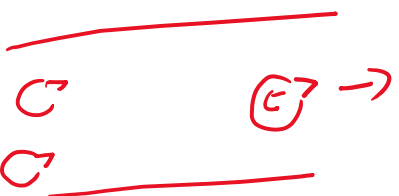
26
27
28
29
30
31 【ヒロイン、怪しいやつらに待ち伏せされていたので慌てて道を変えようと走り出す】

32 SE:走る足音

33 SE:スタンガン

34 SE:倒れる

35



1
2
3 【13】
4 ルシ「イラッとして」おい！ 乱暴に扱うな！ 僕のペットだぞー！」

5
6 【13】
7 管理官「舌打ち」あんたが邪魔するからでしようが……！
8 何のために翻訳機なんか使って、地球人の仮装してると思ってるんです？

9 邪魔しないって言うから連れてきたのに、
10 これだから軍人はガサツで嫌なんだ……！」

11 SE 駆け寄る

12
13 【ルミルルス、倒れたヒロインに駆け寄って抱き起す】

14
15 【3 抱きかかえる距離】

16 ルシ「かわいそうに……ケガしてない？

17 よしよし、ビックリしたね。

18 急に体が動かなくなつて、こわいね。嫌だね」

19
20 【管理官、ルミルルスの背後（11）から近づいて、ヒロインの7に立つ】

21
22 【7】

23 管理官「どいてください。今、麻酔打ちますから。

24 ったく……こんな乱暴な捕獲の仕方じゃ、

25 なつくの時間かかりますよ？

26 ただでさえ、地球人の成体はなつきにくいんですから。

27 今からでも別の個体にしたらどうです？」

28
29 ルシ「この子がいいんだ。

30 最初は少し手こずるかもしれないけど……

31 少しずつでも、なついてくれればいい」

32
33 管理官「そうですね。

34 では、この個体を登録します。

35 これから星に連れて帰って、

36 すべての検査にパスしたらまたご連絡しますんで」



1
2 ルシ「このまま連れて帰っちゃダメかなあ」

3
4 管理局「ダメです！」

5
6 ルシ「わかったよ。頭硬いなあ……」

7
8 【耳元で】またね。僕のかわいいテランちゃん」

9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35

1 トラック2 はじめてのしつけ

2 見知らぬ部屋で目覚めたヒロインの元に、電話をしながらルミルルスがやってくる。恐怖と
3 混乱でパニックを起こすヒロインに、ルミルルスは「自分が主人である」と思い知らせるた
4 めにはじめてのしつけを開始する。

6 場所…飼育部屋

7 時刻…不明

9 【自宅に届いたペットが目覚まさないため、管理官に電話をかけるルミルルスだが、電話
10 中にヒロインが目覚ます】

12 SE:電話の呼び出し音

14 【6】

15 ルミ「あ、もしもしペット屋さん？

16 今日の朝にテランちゃん届いて、今仕事から帰ってきたんだけど……

17 なんか、人間ちゃんまだ寝てるんだよね。

18 麻酔の量間違えてない？ 病院とか——あれ？

19 あ、ごめん。もういいや。

20 なんか今ちようど目が覚めたみたい。じゃあね」

22 SE:通話切る電子音

24 【教育番組のお兄さんみたいな調子】

25 ルミ「やあ、おはよう。初めまして。僕はルミルルス。

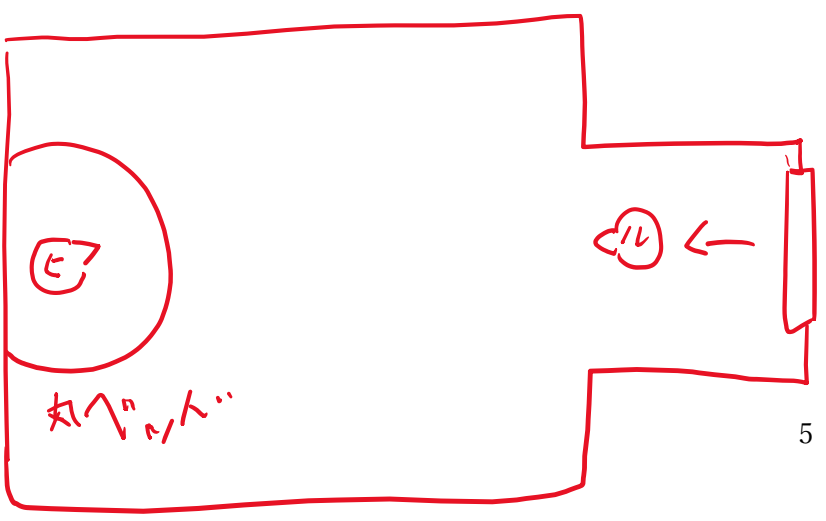
26 本当はもうちよつと違う発音なんですけど、

27 それじゃ聞き取れないだろうから。

28 君たちの未発達な声帯じゃ、呼びにくいよね。

29 気軽にルミくんって呼んでくれたらいいよ！」

31 【ヒロイン「なにになになに！？」】



1 【6】
2 ルミ「うわ……！ びっくりした。
3 どうしたの？ 急に吼えたりして。
4 首輪の翻訳機能、ちゃんと動いてるよね？
5 僕の言ってること、わかる？」
6
7 【ルミ、首輪が機能しているか不安になって、システムに音声で確認の命令を出す。この時
8 の口調はヒロインに対するものとガラツと変えて冷ややかにお願いします】
9
10 ルミ「システム！ 首輪が正常に動いてるかチェックをしろ」
11
12 システム「チェックを完了しました。すべて異常なし」
13
14 ルミ「異常なし……？ じゃあ、こっちの言葉も通じてるのか……。
15 システム。首輪から取得したデータと、安静時における
16 地球人の平均値を比較して報告しろ」
17
18 システム「ストレス値の突出した上昇が確認されました。
19 対象の地球人は極度の緊張状態にあります」
20
21 ルミ「飼育環境に異常は？」
22
23 システム「検知されません」
24
25 ルミ「数値の異常はいつからだ？」
26
27 システム「ルミルルス様の発話と同時に、ストレス値の急上昇が確認できます」
28
29 ルミ【「少しイライラ」それだとまるで、僕が嫌われてるみたいじゃないか。
30 システム、何か改善策を提示しろ】
31
32 システム「地球人の野生個体の飼育に関するデータを取得し、
33 端末に転送しました。
34 野生個体は突然の環境変化に弱く、
35 しばらくは極度の緊張状態に置かれます。
36 なつかなくても根気よく接することが鉄則です」

1 【6】
2 ルミン「根気よく……つて。」

3 つまり改善策はないってこと？
4 そういえば、ペット屋さんもそんなこと言ってたような……」

5
6 【ルミスフル、とりあえずヒロインの狼狽が一般的なものと確認して安心し、改めてヒロ
7 インとの交流を図るべく気を取り直す。】

8 ルミン「そっか、まだ警戒してるよね。」

9 大丈夫、怖い事なんて何も無いよ。
10 ここは君の新しい家で、僕は君の新しい家族だ」

11
12
13 【ヒロイン「何言ってるの！？ 頭がおかしいの！？」】

14
15 ルミン「こらこら、大きい声を出さないの。」

16 なんか、頭がおかしいとか言われたが気がするけど……
17 翻訳機の誤訳かな。

18 市販品って翻訳の制度低いもんなあ。
19 まあ、いいや。一応作動してるみたいだし、
20 僕が言ってることは通じてるよね？

21 今回は許すけど、次に大きな声で吼えたらお仕置きだからね？」

22
23 【ヒロイン「服を返して」】

24
25 ルミン「……え、服？」

26 ああ！ 自分の臭いがついてるものがなくて不安になってるのか。
27 地球人は嗅覚が鈍いっていうから、気にしないと思ってたのに……

28 ごめんね、君の服は処分しちゃったんだ。
29 僕さあ、嫌いなんだよねえ。ペットに服を着せるの。

30 野生個体はみんな服を着てるからって、着せてるやつも多いけどさあ、
31 せっかく飼育下なんだから、裸で過ごさせてあげたほうが絶対いいと思うんだ」

32
33 【ヒロイン「ペット？」】 a

34
35
36

1 ルミン「そう、ペット。
2 ああ、「家族」って言ったから誤解しちゃったのか！
3 ごめんごめん。
4 じゃあ、誤訳がないように、シンプルに説明するね。
5 君は僕のペットになりました。
6 君の名前は、テラン。地球って、テラって呼ぶでしょ？
7 だから地球人のテランちゃん♡可愛い名前でしょ。
8 僕がご主人様だから、他のやつになついちやダメだよ。
9 これからは僕のことだけ見て、考えて、触れて、癒すんだ。
10 【うっとり】ああ、こんなに可愛い命がうちに居るんなら、
11 僕、いくらでも仕事を頑張れそう！」

12
13 【ヒロイン「家に帰して」】

14
15
16 【ルミルルス、怯えるヒロインに、話しながらゆっくり近づく】

17 SE:歩み寄る足音(ニム)から

18
19 【6→1】

20 ルミン「家？ そんなところに、もう帰らなくていいんだよ。
21 僕の家なら湿度も温度も完璧に管理できるし、
22 その首輪で君の健康状態も心理状態も把握できる。
23 ペットを守るための保健処置もフルで受けさせたから、
24 君は年をとることも病気になることもなく、
25 ずっと、ずーっと僕と一緒にいられるんだ！」

26
27 SE:足音ストップ

28 SE:抱きしめた時の音

29
30 【e3 ヒロインをハグ】

31 ルミン「僕がうんと可愛がってあげるから、安心して新しい人生を楽しんで！」
32
33
34
35
36



1 【3】
2 ルミ「あー、柔らかい。それに、いい匂い。
3 僕らとほとんど同じ見た目なのに、種としては全然違うって、不思議だよね。
4 同じ見た目なのに馬鹿で、無力で……
5 そういうところが、すごくかわいい」

6
7 ルミ「僕、残念な生き物って、凄くいとおしく感じちゃうんだ。
8 君が非文明的で、どうしようもなく低次元な星の生命体で、
9 本当によかった！」
10

11 【ヒロイン、怯えて暴れ出す】
12

13 SE:激しめの衣擦れ
14

15 【3→1】
16

17 ルミ「おっと……！ 何したの？ 急に暴れたりして。
18 ダメだよ、爪を立てたら。
19 こら！ ダメだって言ってるだろ！」
20

21 【ルミルルス、暴れるヒロインをベッドに押さえつける】
22

23 SE:ベッドに倒れる音
24

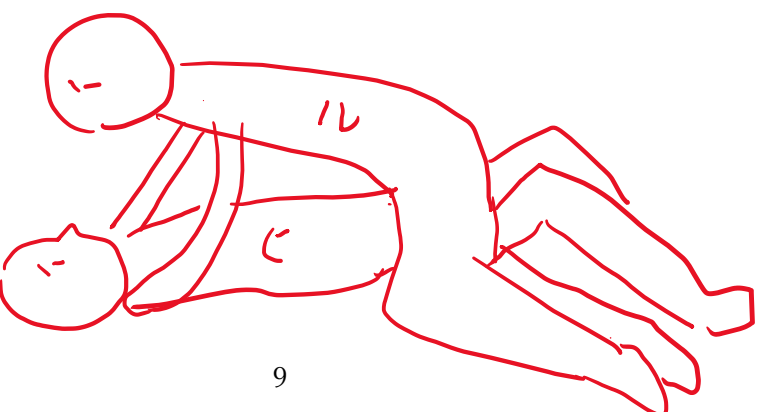
25 【1 押し倒す距離】
26

27 ルミ「まったく……翻訳機があるのに、聞き分けのない子だな。
28 捕獲の時手荒だった影響かな……？
29 かわいそうだけど……ちよつとキツめにしつけないといけなくなりそうだね」
30

31 【ヒロイン、怯える】
32

33 【1】
34

35 ルミ「いい？ 君はこれから、僕なしじゃ生きられないんだよ。
36 だから僕の言うことは全部聞かなきゃいけないし、
僕を喜ばすために、頑張らなくちゃ。
僕の言いつけを破るなんて、もってのほかだ」



1 【1】
2 ルミ「本当は、もう少し時間をかけてならしていこうと思ってたけど……
3 うん、ペット屋さんの言う通りかもな。
4 最初に「ご主人様には絶対になわかない」って教えておかないと、
5 逆に君にとって危険かもしれない」

6
7 【1↓少し離れて見下ろす】

8 ルミ「僕の言葉は理解できてるね？」

9 それじゃあ、簡単な命令をするよ？

10 足を開いて、君の恥ずかしいところを僕に見せるんだ。

11 服従のポーズだよ。できるね？」

12
13 【ヒロイン、恐怖で硬直したまま動けない】

14
15 ルミ「どうしたの？ 早く言う通りにして。

16 仰向けにごろんとしたまま、足を開くんだ。

17 【ちよっとイライラして】ああもう、別の翻訳機を買うべきだったな。

18 ほら、こう【ヒロインの足を開く】やって……」

19
20 SE：ジタバタ

21
22 【ヒロイン大声を上げて暴れるが、全然足を閉じれない】

23
24 ルミ「そんな風に、大声で吠えても、暴れても無駄だよ。

25 カじゃ絶対になわないんだ。

26 あんまり力を入れると、そっちの方が折れちゃうよ？

27 すぐ治るから困りはしないけど、痛さは変わらないんだから」

28
29 【ヒロイン力尽きる】

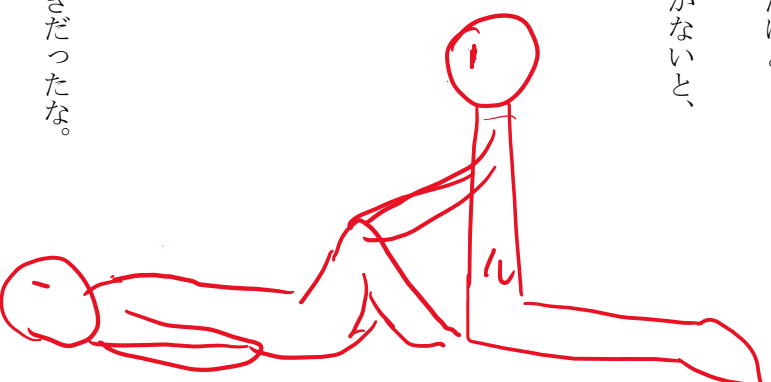
30
31 ルミ「よしよし、いい子だ。大人しくできたね。

32 ふふ……こうしていると、同種の女の子の人を押し倒してるみたいだね。

33 話には聞いてたけど、本当に、基本的な体の形は同じなんだ。

34 体は少し小さいけど……」

35
36



1 【7 耳元で】
2 ルミ「だからこそ、キツくてキモチイいんだってさ。
3 これのために、地球人を飼ってる奴もいるくらいなんだ。
4 (囁く) ねえ……僕も試していいかな？」
5

6 【ルミルルス、怯えて固まっているヒロインに指入れようとする】

7
8 ルミ「ああ、ダメだな。全然濡れてないし、緊張でガチガチだ。

9 ああ、怖がらなくていいよ。

10 痛いことはしないから。

11 たっぷり舐めて、濡らして、ならしてあげる。

12 けど、その前に……」
13

14 【ルミルルス、端末をいじってヒロインの感度を上げる】
15

16 【1】

17 ルミ「神経をちよつといじって、感じやすい体にしてあげる♡

18 そうだな……緊張して感じにくくなってるみたいだし、

19 十倍くらいでいいかな？」
20

21 SE:電子音

22
23 ルミ「はっ、これでよし。

24 どう？ わかる？」
25

26 【7 耳元で】

27 ルミ「ほら……風が肌を撫でるだけで、きもちいいでしょ？

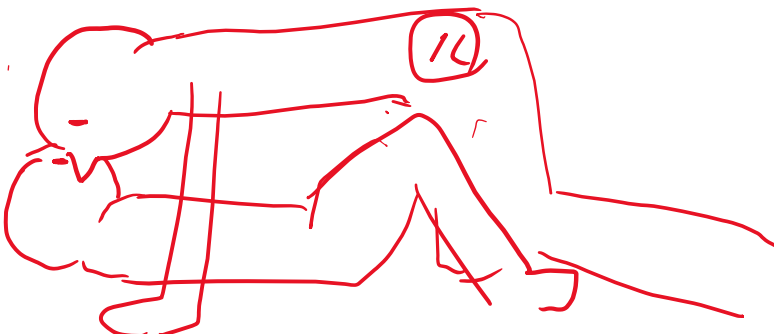
28 耳元でささやかれるだけでイっちゃいそう？

29 どれくらい気持ちよくなれるか、楽しみだねえ？

30 ドキドキするねえ？

31 指でほら、体をちよつとさわさわするだけで……」
32

33 SE:びくつとする衣擦れ
34
35
36



1 【7 耳元で】
2 ルミ「ほら、もう軽くイっちゃった。
3 そのビンビンになった乳首をきゅってしたら、
4 どうなるかなあ？」
5

6 【ヒロイン「やめて」】
7

8 【7 耳元で】

9 ルミ「だめだよ、やめない。
10 僕は君のご主人様だからね。
11 君がどんなに嫌がっても、
12 必要なことはやらなくちゃ。
13 ほら、両方同時に……きゅーって」
14

15 ルミ「あははははは！

16 すごい声だな。ほうら、くりくり、かりかり、
17 気持ちいいねえ。

18 イっちゃえ、イっちゃえ♡

19 もうイってる？ 泣いちゃうくらいキモチイイ？
20 乳首、もうくりくりしないでほしい？

21 ルミ君大好き、って言ってくれたらやめてあげる。
22 ほら、言わないともっと感度上げちゃうよ？」
23

24 【ヒロイン「ルミ君大好き」】
25

26 【1】

27 ルミ「よく言えました！

28 じゃあ、おっぱいいじめるのはもうおしまい。
29

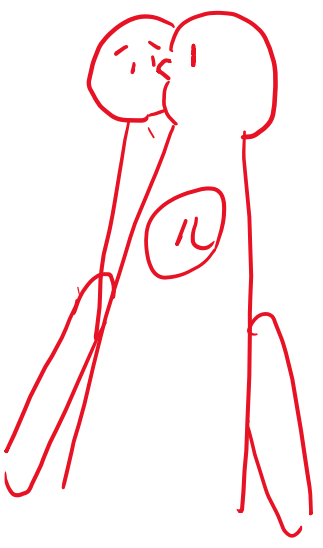
30 次はあ——」

31 【e】

32 ルミ「耳の中に舌突っ込みながら、
33 君の大事なところ、指でいっぱいいじってあげる」
34

35 SE:手ヤン

36 【30秒ほどヒロインの耳舐める】



1 【3 舐めながら合間にしゃべる】

2 ルミ「ん……れる……あは♡ すっい♡

3 濡れて、あふれてきた。

4 足ビクビクさせて……

5 力じゃ勝てないってわかってるのに、まだ暴れるの？

6 あ、違うか（笑）

7 気持ちよくて、体が勝手に反応しちゃうんだね」

8

9 ルミ「可愛い♡鳴き声。

10 すっごく甘くて、耳が溶けちゃいそう……」

11

12 SE:挿入する水音

13

14 ルミ「あははっ、指、簡単に入っちゃった。

15 もうすっかりトロトロだ。

16

17 さっきまであんなにおびえてたのに、

18 地球人って、少し触られただけで

19 簡単にえっちな気持ちになっちゃうんだね。

20 それとも、君が特別淫乱な個体なのかな。

21 かわいいだけじゃなくていやらしいなんて、

22 テランちゃんは最高のペットだね♡」

23 ルミ「指で奥触られるの、気持ちいい？

24 いっぱい濡れてるし、そろそろ入れても大丈夫かな」

25

26 SE:服タンタン

27

28 【ルミ、服を脱いで下半身を露出させる】

29

30

31

32

33

34

35

36

※おと正常位です

1 【1】

2 ルミ「見て…君がかわいいから、もう、こんなになっちゃった。

3 【ちよつと焦って】あぁっ、怖がらないで。

4 大丈夫、大丈夫。

5 ゆっくり入れるし、今の君はちよつとくらい痛くても、

6 全部〃きもちいい〃って感じられるから。

7 【ゆーっくり優しく】さぁ、息を吸って――吐いて――

8 ……いくよ【奥まで一気に挿入】

9

10 SE:挿入する水音

11

12 【雄みやや増しでお願いします】

13 ルミ「あぁ…、これは、思ってたより…

14 気持ちいい…な…

15 ね？ 君も痛くないでしょ？

16 けど、ちよつとお腹苦しいかな…

17 僕の形がわかるくらい、ぱんぱんに膨らんでる。

18 わかる？

19 こうやって抜くと、お腹も引っ込んで…

20

21 SE:引き抜く水音

22

23 ルミ「奥までつくと、ほら、膨らむ…！」

24

25 SE:肉を打つ音

26

SE:突っ込む水音

27

28 ルミ「ふふ……ぎゅーって締まった。

29 大きくて、苦しいの、好きなんだ？

30 じゃあ、いっぱい気持ちよくしてあげる」

31 【ピストン開始】

32

33 SE:水音中速

34

35 【吐息のみ30秒ほどお願いします】

36

1 【1】
2 ルミ「あぁっ……本当にやばいな、気持ちよくて……」

3 【笑う】だって君が、突くたびにイって締めるから」

4
5 ルミ「情けないご主人様で、ごめんね？」

6 もうちよつと優しくしてあげたいけど、

7 ちよつと、今回は…全然我慢できそうにないや」

8
9 【フィニッシュに向かう激しめの吐息のみ1分ほどお願いします】
10

11 SE:ピストン高速

12
13 ルミ「あぁっ、もうやばい、出る、出るっ……【射精】」

14
15 【ピストン終了】
16

17 SE:射精(長め)

18
19 【満足】

20 ルミ「……あー、いっばい出ちゃった。

21 ねえ、わかる？

22 君の中が、僕の精液でたぶたぶになってる。

23 お腹、ちよつと膨らんじやったね、ふふ……」
24

25 SE:抜く水音

26
27 【抜く】
28

29 ルミ「あーあ、抜いたらこぼれちゃった。

30 もったいないな。

31 せっかくだから、このまま妊娠しちゃえば良いのに」
32

33 【ぐったりと横たわるヒロインの額にキス(複数回)し】
34

35 ルミ「よしよし、しつけ頑張れたね。えらいね

36 大好きだよ、これから一生大切にやるから、よろしくね」

トラック3 ごはんの時間

1 ヒロインが目覚めると、ご飯の時間。
2 食事を皿に持ってきたルミが、手から直接食べるように強いてくる。
3 ヒロイン頑張ってる食べる。
4 ルミ大興奮。
5 ついでに指とかペロペロさせてくるし、最終的に口移しで一緒に飴を舐めてくる。
6 セックスじゃないけど、そういう「プレイ」な感じ。

9 SE:自動ドア開閉

10 SE:近づいていく足音

11 SE:食器の乗ったトレイかちやかちや

【6】

14 ルミ「おはよう、ご飯の時間だよ。
15 調子はどう？」

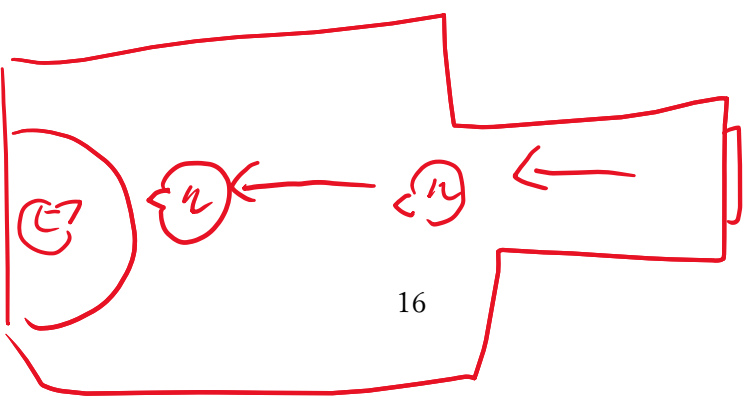
17 SE:首輪の電子音 (健康状態を首輪で確認)

19 ルミ「ストレス値は……やっぱり高いなあ。
20 そのほかの数値は大丈夫そうかな。
21 昨日はちよつと無理をさせちゃったから、
22 弱ってないか心配だったんだけど……。
23 食欲がありそうでよかった。
24 ご飯の話をしたとき、ストレス値がちよつと下がったもんね」

【1】

27 ルミ「はい、地球人用のご飯。
28 このドライフードにはね、地球人に必要な栄養がゼーんぶ入ってるんだ。
29 【器をヒロインの目の前に差し出して】はい、どうぞ」

31 【ヒロイン「……スプーンとかは？」】



1 【1】
2 ルミ「食器？ ああ、いらないらない。
3 そのまま、口で食べて良いよ。
4 野生化では食器を使ってたかもしれないけど、
5 ここではそんな不自然なことしないでいいんだ」
6

7 【ヒロイン、渋々手で食べようとする】
8

9 【全然怒ってない感じで】
10

11 ルミ「あ、こーら。手を使っちゃダメ。
12 直接ご飯をつかむなんて、汚れるし、お行儀が悪いでしょ。
13 僕が傾けてあげるから、そのまま直接口をつけて」
14

15 【なおも躊躇うヒロイン】
16

17 ルミ「食べたくない？ どうして？」
18

19 見慣れない食べ物だから警戒してるのかな……？
18 よしよし、怖くないよ。
19 お口開けて、ほら、食べさせてあげる。
20 あーん」
21

22 【ヒロイン、口を閉じ続ける】
23

24 ルミ「もーっ、本当に頑固！
25

26 そうやって僕を困らせたなら、どうなるか昨日教えたよね？
27 それとも……気持ちいいお仕置き、癖になっちゃった？
28 けど、困ったなあ。

29 お仕置きがご褒美になっちゃってるなら、
30 口から胃に管を入れて、無理やり食べさせることになるけど……
31 ああ、お尻の穴からハイカロリーの液体を注入する方法もあるよ。
32 君はどっちがいい？」
33

34 【ヒロイン、慌ててルミの持っているカリカリを食べる】
35
36

※おと回さあ、乙ます

1 【1】
2 ルミン「……よかった、僕の気持ちを通じたんだね！
3 よしよし、喉に詰めちゃわないように、よく噛んで。
4 そう、もぐもぐ。上手だね〜」

5
6 SE:皿の中のカリカリを一つかみする

7
8 ルミン「はい、おかわりだよ。
9 ……んふふ、手がくすぐったいな。
10 これから、僕がお世話できる時のご飯は、
11 みんなこうして食べさせようかな。
12 君が僕の手口をつけてご飯を食べるの、
13 すっごく、可愛い」

14
15 ルミン「よしよし、これからもこうやって良い子にしててね。
16 そうすれば僕だって、君にお仕置きなんてしなくて済むんだから。
17 ねえ、美味しい？ 美味しいよね。
18 僕が直接食べさせてあげてるんだもん、美味しいに決まってる。
19 こぼしちゃダメだよ、全部丁寧に食べて」

20
21 SE:皿の中のカリカリを一つかみする

22
23 ルミン「ほら、これで最後。
24 食べ過ぎもいけないからね、可愛い君に我慢させるのは辛いけど……
25 でも、健康が一番大事だから。
26 さあ、ゆっくり食べて。
27 僕の目を見て、ゆーっくり……
28 そう……ちゃんと最後の一粒まで、残しちゃダメだよ」

29
30 【うっとり】

31 ルミン「うん、良い子だね……かわいい……
32 小さい口で、一生懸命食べて……
33 僕がいなくちゃ、生きていけないなんて、本当に可愛い……」

34
35 【ヒロイン、咀嚼終える】

36

1 【1】
2 ルミ「よしよし、ちゃんと全部食べれたね。
3 あとは、僕の手についたフードの粉だけ。
4 ほら、ちゃんとぺろぺろして」
5

6 【ヒロイン、渋々ルミの手に舌を這わす】
7

8 SE:くちや。くちや
9

10 ルミ「んっ……柔らかくて、あつたかい……
11 君の薄くてちっちゃい舌が、
12 ぬるぬる僕の手を這い回って……
13 お利口さんで、可愛いね」
14

15 【手舐め終了】
16

17 ルミ「ああ、もういいの？
18 そっか……もつと舐めてくれても、よかったのに。
19 でも、うん、ちゃんときれいになってる。
20 よーし、良い子にはご褒美をあげなくちゃね」
21

22 【ヒロイン「……………ご褒美？」】
23

24 ルミ「じゃーん！ これ、なーんだ？
25 そう、キャンディ。
26 地球産の、地球人用お菓子。嬉しいでしょ？」
27

28 ルミ「僕らでも食べられるらしいから試してみたんだけど、結構美味しかったよ。
29 素朴な味だけど、だからしみじみ楽しめるっていうか……
30 地球人用フードがあるから、これは余計な栄養なんだけど、
31 ストレス解消には良いんじゃないかなって。
32 はい、あーん」
33
34
35
36

1 【ヒロイン、渋々飴を口に含む】

2
3 【1】
4 ルミ「甘くてコロコロしてて、美味しいよね。

5 君が良い子にできてたら、時々ご褒美に食べさせてあげる」

6
7 ルミ「ん〜？ あんまり、嬉しそうじゃないな……。

8 どうしたの？ 僕がわざわざ地球人の縄張りから持ってきたのに、

9 美味しくないわけじゃないね？ もしかして不良品だった？

10 うーん、一応確かめておこうか」

11
12 ルミ「口、開けて【ディープキス】」

13
14 【「ん」からいい感じにディープしつつ喋ってください】

15 ルミ「ん……なんだ、ちゃんと甘いじゃない。

16 ああ、本当に……わざとらしいくらい、甘ったるいな。

17 ほら、ちゃんと舌動かして、舐めて。

18 君のために用意したんだから……」

19
20 【ディープキス30秒程度して、いったん口をはなす】

21
22 ルミ「ん？ もういらないの？

23 そう……じゃあ、

24 舌で飴を僕の口に押し込んで。

25 ほら、頑張って舌突き出して……ん」

26
27 【ディープキス十秒程度のち、飴を引き取って噛み砕く】

28
29
30 SE: 飴を噛み砕くガリって音

31 ルミ「じゃあ、これでおやつはおしまい。

32 いい子にしてたらまた舐めさせてあげる。

33 だからこれからもちゃんと、

34 僕の言うことを聞くんだよ。いいね？」

35

トラック4 お仕置き

ルミの外出中、脱出への足掛かりでも発見出来ないかとヒロインが動き出す、見守り機能によって阻止される。

ルミ君が帰ってくるまで終わらない快樂刑。

場所：飼育部屋

時刻：不明

SE:飼育部屋の中でルミがうろろゴソゴソ

【ヒロイン起床、ルミがそれに気づく】

【10 背後のヒロインに振り向きつつ】

ルミ「あ、ごめん、起こしちゃった？」

【ヒロイン「何してるの……？」】

【10 パネル見ながら】

ルミ「ん？ 今はね、君のお留守番の準備をしてるんだ。

僕は悪い異星人をやっつける仕事をしてるんだけど、

今日はちょっと大きな仕事があるんだ。

今から、明日の夕方まで——

そうだな、多分丸一日くらいいいないから、寂しいと思うけど、

【8まで近寄っておでこにキス】……いい子で待ってられるよね？」

【この隙に脱出を試みたいヒロイン、頷く】

ルミ「うん、いい子だ。

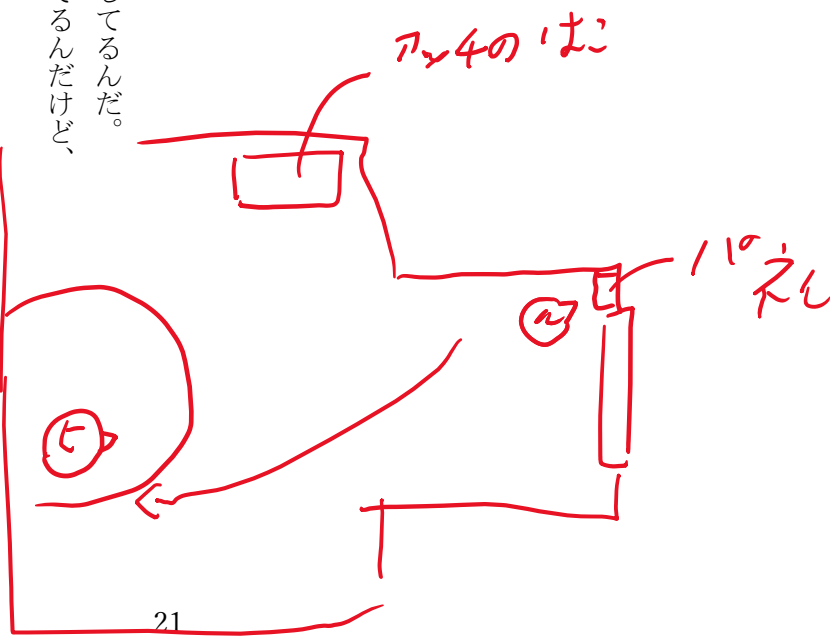
ご飯は時間が来ると、あっちの箱が開いて出てくるからね。

飲み物は、その隣。ほしいときに近づくと出るから

扉のコントロールパネルはいじっちゃダメだよ？

空気や温度の設定が狂ったら大変だし、

万が一扉が開いたら、大変なことになっちゃうからね」



1 【ヒロイン、脱出経路として覚えておく】

2
3
4 【1↓9 ヒロインに背を向けて歩きながら、最後に振り向く】
ルミ「そろそろ行かなきゃ。」

5 ちゃんといい子にしてたら、ご褒美あげるからね。
6 それじゃ、行ってきます」
7

8 SE:遠ざかっていく足音

9 SE:自動ドア開閉

10 SE:なんか電子ロックのかかる音

11
12 【3秒ほど環境音のみ】

13
14 SE:ヒロインの足音

15 SE:扉の操作盤を適当にいじる電子音

16 SE:サイレン（冷蔵庫開けっ放しの電子音）

17
18 【1】

19 システム「電子ロックの不正な操作が検知されました。

20 十秒以内に生体スキャンを行うか、

21 復旧コードを入力してください。

22 10、9、8、7、6、5、4、3、2、1。

23 タイムアウト。

24 外部カメラへ接続します」

25
26 【ルミルルス、出かけて三秒で電子ロックの不正操作が検知されたため、”あーあ、悪戯
27 しちゃだめっていったのに”というテンションでシステムからの呼び出しに応じる】
28

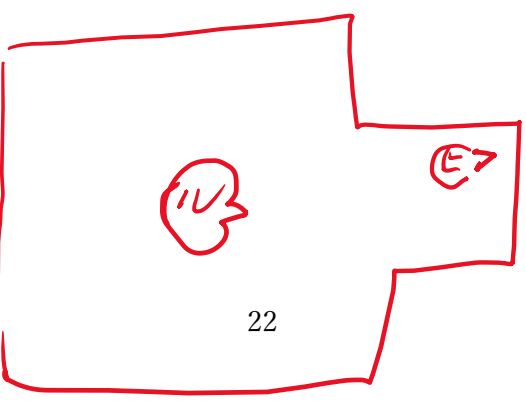
29 SE:通信がしながる電子音

30
31 【等身大ホログラムによって、部屋に存在しているようにふるまえるルミルルス】
32

33 【1c】

34 ルミ「(「)らー！ コントロールパネルには触っちゃダメって言ったでしょ！

35 めっ……悪い子！」
36



1 【ヒロイン、急に背後からルミが現れたため、悲鳴を上げて振り向く】

2

3 【6】

4 ルミ「なに？ その悲鳴。ああ……ホログラムに驚いたのか。

5 この星では当たり前だけど、地球にはない技術だもんね。

6 今回仕事忙しいから、ホログラムで通話する暇もない予定だったんだけど……
7 まさか、僕が出かけて三秒でイタズラしちゃうとはねえ」

8

9 【ルミルルス、ホログラムなので立ち位置の瞬間移動気にしなくて大丈夫です】

10

11 ルミ「いい子でお留守番できたら、ご褒美を持って帰るつもりだったのに……

12 これだと…お仕置きの方だなあ」

13

14 【ヒロイン、必死に謝る】

15

16 ルミ「謝ってもダメだよ。コントロールパネルは本当に触ったら危ないんだ。

17 頼まれたって二度と触りたくなくなるくらい、

18 きちんと躡けておかないと……心が痛むけど、

19 全部テランちゃんのためなんだ。わかってくれるよね？」

20

21 ルミ「システム。お仕置きプログラムを起動しろ」

22

23 【13】

24 システム「起動します」

25

26 SE:壁の扉が開く電子音

27 SE:ぬちゃぬちゃした音が近づいてくる

28

29 ルミ「そんなに怯えなくても大丈夫。

30 そいつはお仕置き用の触手だから、君を傷つけることは絶対にしない。

31 そういう風に作られてるんだ。

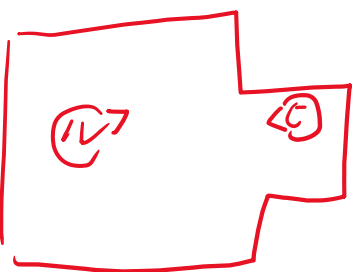
32 ただ、"あるもの"を得るために、どんなことでもするように、

33 遺伝子レベルでプログラムされてる。

34 その"あるもの"って、なんだと思う？」

35

36 SE:触手の音 (右にパンして大きめに)



1 【7 耳元で】
2 ルミ「地球人の愛液だよ」
3

4 SE：ヒロインが逃げ回るドタバタ音

5 SE：触手がい回る水音

6
7 【13】

8 ルミ「逃げてでも無駄、無駄。

9 ほら——」

10
11 【3 耳元】

12 ルミ「もう捕まっちゃった」
13

14 SE：ヒロインが触手に捕まって暴れる衣擦れ

15 SE：()から延々ネチヨネチヨ

16
17 【ヒロイン、やめてくれと懇願】

18
19 ルミ「だーめ。

20 ここでやめたら、いい子になれないでしょ？

21 ふふ……

22 おっぱい、触手でにゆるにゆるされるの気持ちいい？

23 腰、浮いちやつてるじゃない。

24 粘液まみれの生き物にいじめられるの、そんなに気持ちいい？」
25

26 【下等種族への見下しと興奮】

27 ルミ「……あは、本当に、ひどい淫乱だな。

28 こんなに自制心がなくて快樂に弱くて、

29 おまけに愚かで脆弱で、

30 よくもあんなに美しい星の生態系の一番上に居座れていたものだね。

31 地球上の国家すら統一できなかったボンクラ種族が、

32 一丁前に文明種ぶって……ははっ（嘲笑）」
33

34
35 【ヒロイン「そんなことない、家に帰して」と泣きわめく】
36

1 【3】

2 ルミ「ああ……まだ自分の立場を理解できてないんだね。

3 本当にかわいそうな劣等種。

4 触手くらいじゃお仕置きにならなそうだから、

5 もう少し強度を上げようか」

6
7 ルミ「システム。地球人のメス用のガジェットを全部使え」

8
9 システム「対象個体が失神する可能性があります、よろしいですか？」

10
11 ルミ「失神したら休ませて、目覚めたら再開のループを設定」

12
13 システム「設定しました。ガジェットを起動します」

14
15 【壁からパイプやローターやブラシが出てくる】

16
17 SE・複数の振動音

18
19 【ヒロイン、恐怖におののいて泣く】

20
21 ルミ「哀れむように」ああ、かわいそうに。泣かないで。

22 君が賢くていい子になれば、僕だってこんなお仕置きはしなくて済むんだ。

23 いいかい、これは全部、君が悪い子だったから起こってることなんだよ」

24
25 ルミ「どう？ 触手粘液でぬるぬるになった乳首に、

26 ローターぎゅってされてキモチイイねえ？

27 真っ赤になったクリを触手でこすられながら、

28 パイプでブルブルされるの、キモチイイねえ？

29 イクの止まらない？

30 もうイキたくない？

31 でも、まだ〃触ってるだけ〃だよ。」

32
33 【7】

34 ルミ「ほら、君がさつきからダラダラあふれさせてる愛液をすするために、

35 一番ぶつとい触手が動き出した。

36 それが今から君の奥に入って、何度も何度も出たり入ったりするんだ」

1 【7】
2 ルミ「囁くように」ほら、もう入り口に触ってる。
3 入るよ……ポコポコに節くれたって、
4 女の子を気持ちよくさせるヤバい粘液でトロトロの触手が、
5 君の奥まで……」

SE:挿入

ルミ「ほおら、一気に入った」

ルミ「あっはっは、いい声。
触手ちゃんほ、そんなに気持ちよかった？
ほら、君のお腹の奥の方の、一番いいところをえぐってくるだろ？
ぐりぐり、ぐりぐり、ぐりぐり、ぐりぐり……つて。
ゆーっくり出たり、入ったりして」

SE:ピストン(低速)

ルミ「奥の方、とん、とん、とん、とん、とん。
とん、とん、とん、とん。
とん、とん、とん、とん。
ぐりぐり、とんとん……気持ちいい？
きもちいいねえ。赤ちゃんみたいによだれ垂らして、
やだやだ泣くほど気持ちいいねえ？
でも、まだまだ気持ちよくなれる——でしょ？」

ルミ「よしよし、じゃあ思いっきり動かそうか。
君が一番気持ちいい奥の奥、いーっぱい、触手で犯してもらおうね。
じゃあ、ちよつと触手に電気刺激おくるから、
君も少しびりつとするよ……ほら！」

SE:軽めの電流

SE:ピストン加速

36

1 【1】
2 ルミン「ああ、気持ちよさそうな顔。

3 小賢しい反抗心も不安も全部なくなつて、
4 僕があげる気持ちよさだけで脳みそいっぱいにしちやつてる、
5 可愛い可愛い。ペットの顔だ。

6 やっぱ君には、これくらいのお仕置が必要だったんだね。

7 さてはお仕置きしてほしくて、

8 わざとコントロールパネルを触ったんでしょ。

9 いいよ、いっぱい声出して、手足バタバタ動かして、

10 みつともなく喘ぎ声漏らしながら、思い切りイっちゃえ」

11
12 【ヒロイン、うわ言のようにイヤイヤを繰り返す】
13

14 ルミン「ははっ、何がやなんだろうね？」

15 そんなに喜んでるくせに。

16 ほら、イっちゃえ♡体ビクビクさせていくんだよ♡

17 イけ、イーけ♡」

18
19 【ヒロイン悲鳴を上げて絶頂】
20

21 ルミン「ん〜いい声。

22 つと……ああ、ごめん。迎えが来ちゃった。

23 ずっと見ててあげたいけど、仕事に行かなくちゃ。

24 じゃあ、僕が家に帰るまでの間、

25 触手ちゃんぽと仲良くね♡」
26

27 【ヒロイン「たすけて、死んじゃう」】
28

29 ルミン「え？ 【笑いながら】死なない死なない！
30

31 なんていいっても、イキくるっても、

32 舌を噛んでも、たとえ呼吸が止まっても、

33 君は死ねないようになつてるんだ」
34
35
36

1 【1】
2 ルミ「システムが自動的に治療して、蘇生して、また死ぬほど気持ちいいのが始まる。
3 犯されながら食事して、犯されながら水飲んで、犯されながらトイレもする。
4 君が選んだんだよ。
5 たった三秒でコントロールパネルをさわって、
6 お仕置き時間が一番長くなるようにね」
7

8 【ヒロイン「ごめんなさい、許して、ごめんなさい」】
9

10 ルミ「うんうん。反省してるんだね。
11 わかるよ。
12 でもやめない。泣いて謝ったら許してもらえらと思っちゃったら、
13 君のためにならないからね。
14 じゃあ、帰ったらきちんごめんなさい聞いてあげるから」
15

16 SE:通信終了 (ピッ)

17 SE:パイプと触手の音30秒ほどでフェードアウト
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36

トラック5 ただいま

出張から帰ってきたルミルフスに介抱してもらえる。

SE:パイプと触手の音

SE:自動ドア開閉

SE:近づいてくる足音

【11】

ルミ「ただいま。」

システム、お仕置きプログラム全停止」

システム「停止しました。

対象個体の生命活動は正常です」

SE:パイプと触手の音ストップ

SE:機械アームが壁に引っ込む。

SE:壁の格納ドアが開閉する音。

SE:そばにしゃがみ込む衣擦れ

【ルミ、倒れているヒロインのそばにしゃがみこむ】

【2】

ルミ「僕のない一日はどうだった？ 僕のいたずらっ子ちゃん。

早く帰ってきてほしくてたまらなかったよね？

まあ、今はそれどころじゃないか」

【ヒロイン、息も絶え絶えで床に倒れたまま動けずにいるため、ルミが助け起こす】

【3】

ルミ「よいしょっと。

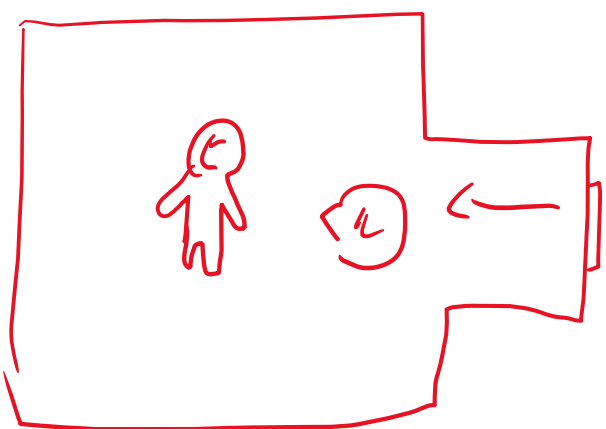
さあ、ベッドでゆっくりお休みしよう。

お仕置き、辛かったね。大変だったね。

もう二度とされたくないね

よしよし……いい子だ、いい子。テランはいい子。そうだろう？

これからはお仕置きなしで、二人で仲良くくらそうね♡」



トラック6 おしと

ヒロインがぼんやりと過している、はきのなくなったヒロインを心配したヒロインが「面白い動画」を見せてくる。
日本語の悲鳴ばかりが聞こえるその映像は、先日ルミたちが滅ぼした地球の記録だった。ヒロインにはもはや帰る場所がないことを、じっくり丹念にわからせるトラック。
エロなし甘やかし。

SE:自動ドア開閉

SE:近づいてくる足音

【足取り軽やかに、元気に部屋に入ってくるルミルルス。怯えてびくつくヒロインに殺戮の映像をみせる】

【6】

ルミ「おつはよー！ 僕のかわいいテランちゃん！

朝ごはんは……うーん。やっぱり今日もあんまり食べてないなあ。

この前のお仕置きから、全然元気ないよね。

昨日ペット屋さんに相談したらさあ、

野生個体に過剰なお仕置きするなって叱られちゃったよ。

お仕置き一日放置はやりすぎだって、

最初から教えておいてくれればよかったのに……。

地球人が貧弱だっていっても、そこまでとは思わないじゃない」

ルミ「ああ、怯えないで大丈夫。今日は君に触らないから。

ただ、見せたいものがあるんだ。

部屋の中央に映像を出すから、見てて」

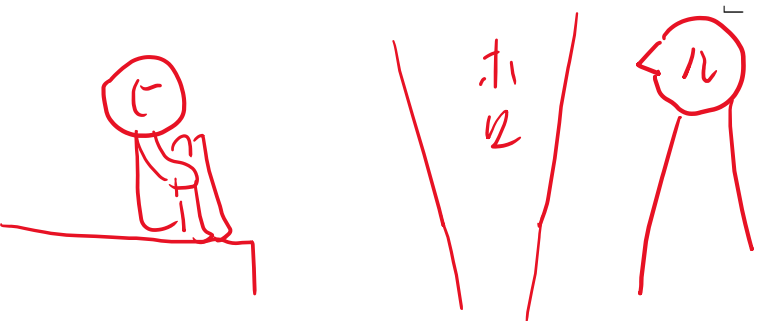
SE:電子音

SE:悲鳴

SE:破壊音

SE:銃撃

(映像媒体で見ているだけのため、全部遠め)



1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36

【6】

ルミ「これはね、この前僕が参加した作戦の記録映像。
今朝届いたんだ。」

仲間の野生個体がどんな目にあってるかを見れば、
自分がどんなに幸せか実感してくれるかなって思ってたさ。

見て、ここでちっちゃく映ってるのが僕。

ふふ……これで案外真面目だからね、

仕事中は笑ったりなんかしないんだよ」

【ヒロイン「どういうこと？」】

ルミ「悪い異星人をやっつける仕事だって言っただろ？」

地球人は愚かなくせに、美しい地球で繁殖しすぎた。

だから全部殺して、地球は僕たちが管理することになったんだ。

まあ、何人かはサンプルとして回収されてるから、

絶滅ってほどじゃないんだけどね」

【ヒロイン「回収してどうするの？」】

ルミ「ああ、回収された個体は、君みたいなペットのために使われるんだ。

どれくらいの痛みで死ぬのか、どんな種類のストレスに耐えられるか、

短期間の実験じゃわからない数値を出すために、

高ストレス下で長期間飼育するんだ」

ルミ「あ、ほら見て！」

これ、どこかわかる？」

【ヒロインの地元が映る】

SE：悲鳴と破壊音

ルミ「君が巣を作ってた場所だよ。」

懐かしいでしょ？」

上官をお願いして、この地域の制圧を担当させてもらったんだ。

【無邪気】ほら見て！ 今爆破されたの、君がよく行ったお店でしょ？」

1 【6】
2 ルミ「ふふ、懐かしいな……」
3 ちよつと前にこの地域を偵察した時、君を見つけたんだよ。
4 地球人って正直僕らに似てる割には愚鈍で弱くてがっかりしてたんだけど、
5 君だけはちよつと光って見えたんだ。
6 もし、こんな可愛い子がうちにいたら、
7 【うんざり】わざわざ下等種族のひしめく星に降りて破壊するなんて、
8 そんなつまらない仕事でも、【前向き】頑張れるって」
9

10 SE: 建物が破壊される音
11

12 【映像の中でヒロインの知り合いが誘拐される】
13

14 ルミ「あれ？ いま、殺さずに捕獲したな……」
15 今の、君の知り合い？ そっか、よかったねえ。
16 この作戦の出撃前にさ、君に触手でお仕置きした映像をみんなで見てたんだ。
17 そしたらさ、あいつすつかり地球人が欲しくなったみたいで。
18 君のことくれくれってうるさいから、
19 『自分で捕まえれば良いだろ』って言ってやったんだ」
20

21 ルミ「さつきの子も、君みたいにペットとして大事にしてもらえるよ。
22 まあ……あいつはちよつと雑なところがあるから、
23 こんど飼育方法を教えてやらなきゃって思ってるけど」
24

25 【ヒロインが色々と恐怖で震え出す】
26

27 ルミ「あれ？ どうしたの、顔が真っ青だよ。
28 変だな……自分は助かって嬉しいって、
29 喜んでくれると思ったのに……」
30 もしかして、死んだ地球人に同情してる？
31 野生個体は群れへの帰属意識が強いつて言うもんね。
32 ごめんごめん、じゃあもう消しちやおう」
33

34 SE: 電子音ピッ
35

36

1 【6】

2 ルミ「困ったな……なんだか、失敗ばかりだ。

3 でも、僕頑張るから！

4 いつか君に愛されるご主人様になるように！

5 あ、そうだ！

6 ペット屋さんから、あたらしい地球人用のおやつを買ったんだ。

7 ついでに、暖かい飲み物でもとってくるよ」

8

9 【6 ヒロインに背を向けながら】

10 ルミ「それじゃ、すぐ戻ってくるからね」

11

12 SE：遠ざかっていく足音

13 S E：扉開閉

14

15

16

1 トラック7 なかよし

2 家族どころか地球自身が征服されてしまい、帰る場所もないし恋しい人にも会えないのが
3 確定してしまったことにより、精神を病んだヒロイン。
4 夜な夜な悪夢を見て飛び起きるヒロインを、ルミはやさしく甘やかす。
5 寝かしつけ甘々セックスです。
6 ずーっと眠たい感じでお願います。

7
8
9 【夜、ヒロインが悪夢を見ている】

10
11 SE:悲鳴

12 SE:破壊音

13 SE:銃撃

14 (夢の中っぽく、全部いい感じにエコーさせてください)

15
16 【飛び起きるヒロイン】

17
18 SE:ガバッ

19 SE:ルミが動く衣擦れ

20
21 【4 眠気と闘いながら優しく】

22 ルミ「……んん……どうしたの、起きちゃった？」

23 ああ、また……こわい夢を見たんだね……。

24 大丈夫？ よしよし、おいで」

25
26 【ヒロインがルミの腕の中に戻る】

27
28 【1 向き合って寝る】

29 ルミ「んふ、いい子【額にキス】

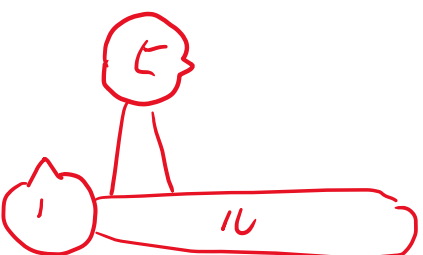
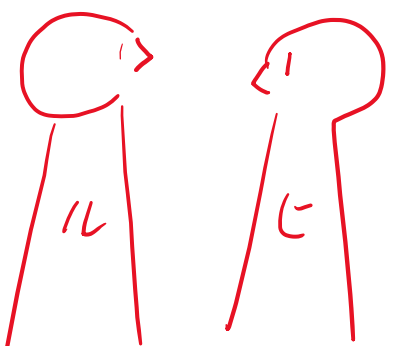
30 随分と、素直になったねえ。

31 ……まだ、怖くてドキドキしてる？ そっか。

32 最近はずーっと、うまく寝れないね。

33 何が不安なのかな……僕がこんなに可愛がってあげてるのに……」

34
35



1 【1】
2 ルミ「うん、別に怒ってないよ。」

3 それに、君にはちよつと可哀想かもだけど、
4 こわい夢を見るようになってから、

5 君はたくさん甘えてくれるようになったよね。

6 僕はね、ふふ、ごめん……ちよつとだけ、それが嬉しいんだ」

7
8 ルミ「君がこんなに怯えて震えているのに、悪いご主人様だよね。ごめんね。」

9 その分いっぱい可愛がつてあげるから、許してね。

10 さあ、今日もよく寝れるように、気持ちいいことしようか。

11 はい、お口開けて……」

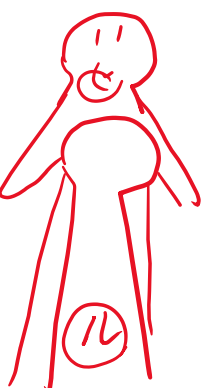
12
13 【ディープキスしつつ、キスの合間にしゃべってください】

14
15 ルミ「うん、いい子……すつごく、上手にキスできてるよ。」

16 そうだね、いっぱい練習したもんね。

17 いい子、いい子。

18 いい子のテランには、ご褒美をあげないと……」



19
20 【キス終了】

21
22 SE：ルミが布団に潜っていくゴソゴソ音

23
24 ルミ「あは、もう乳首立ってる。」

25 このドキドキは、こわい時のドキドキじゃないよね。

26 ふふ、もう気持ちいいの思い出しちゃった？

27 いいよ、おっぱい、可愛がつてあげる【ここから舐め10秒程度】

28
29 【ヒロインが快感に身をよじる】

30
31 ルミ「気持ちよさそうだねえ。」

32 どう、そろそろ怖いなくなった？ まだ？」

33
34 【ヒロイン「まだ……」】

35
36

1 【1】
2 ルミ「ふうん、そっか……じゃあ今夜も、
3 【3 耳元に囁く】気絶するまで、交尾ごっこしようか」
4

5 SE:布団ベッドの端に寄せるバサーつて音

6 SE:ルミが体を起こす

7
8 【1 ベッドの上で座った状態】

9 ルミ「もうおねだりの仕方は覚えたよね。

10 ほら、やっごらん。

11 まずは、おちんちんにちゅーして……

12 そう、上手。

13 ふふ、美味しそうに舐めるようになったね。

14 言っごらん？ 美味しい、美味しいって」
15

16 【ヒロインがフェラ始める】
17

18 SE:フェラ音 (ゆっくり目で)
19

20 【ちよつとずつ余裕をなくしていく】

21 ルミ「ああ……本当に、上手になった……」

22 地球人の、小さくて温かい舌が、裏筋ぬるぬるして……

23 あっ……うん、いいよ。

24 きもちいい。

25 そのまま……はぁ……くわえて、のどの奥まで。

26 そう、あっ……あぁ……いいよ。すごく気持ちいい」
27

28 【1分ほどやわらかめに吐息だけください】
29

30 罪「ああ、ストップストップ……！」

31 そんなに吸っちゃだめだよ。

32 口の中で出ちゃうから。

33 ほら、もうお口離して……」
34

35 【フェラ終了】
36



1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36

【1】
ルミ「はあ、君は本当に賢くて良い子だなあ。
おかげでほら、こんなにガチガチになっちゃった。
君の中に入りたくて、どくどく脈打ってる。
おいで、今日はぎゅーって、抱き合っしょう。
怖いのが全部なくなるように」

【対面座位、ヒロインから乗っかる】

SE：触れ合う水音

ルミ「やりかた、わかるよね？
ほら、気持ちいいところ、ヌルヌルこすり合わせて、
ゆっくり腰を落として……」

SE：入れる水音

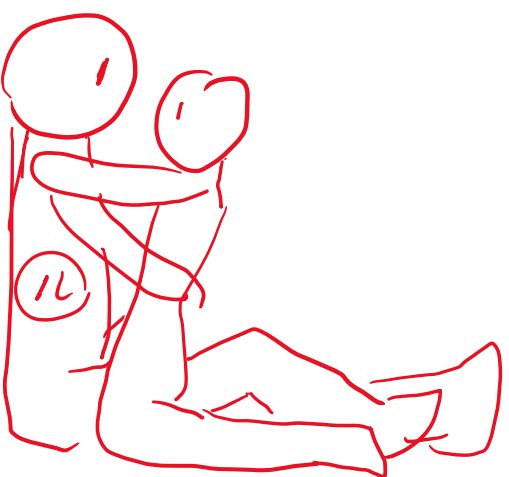
ルミ「ははっ、すんなり入った。
君の中、すっかり僕の形になってる。
好きに動いていいよ。
自分が気持ちいいところに、いっぱい当てて……うん」

SE：ピストン中速

【ε 耳元で囁く】
ルミ「よしよし。」

きもちいいね、きもちいいねえ。
僕でオナニーして、何回も何回もイッちゃって、
頭ぐちゃぐちゃにして、全部忘れちゃえ。
君は一生この部屋から出なくていいんだから、
怖いことなんて、何もないんだよ」

【ε0秒程度耳舐め】



1 【1】
2 ルミ「はは、耳舐められてイっちゃった。
3 耳元で囁かれるの、気持ちよかった？」
4

5 【7】
6 ルミ「じゃあ、反対も舐めてあげる」
7

8 【耳舐め30秒程度】
9

10 【耳を舐めつつ、合間にしゃべってください】
11 ルミ「ね、気持ちいい？
12 またイっちゃったでしょ、中がビクビクしてるから、わかるよ。
13 【耳舐め終了】
14

15 【1】
16 ルミ「幸せそうに」こんな僕に懐いちゃったら、
17 もうほかの飼い主のところになんていけないねえ。
18 僕に捨てられちゃったら、君はどこにも帰れないんだ」
19

20 【ヒロイン、泣き出す】
21

22 ルミ「泣かなくていいよ。僕は君を捨てたりしないから。
23 今日もそれをいっぱいわかせてあげようね。
24 ほら、四つん這いになって。」
25

26 SE:ピストン中断

27 SE:抜く水音

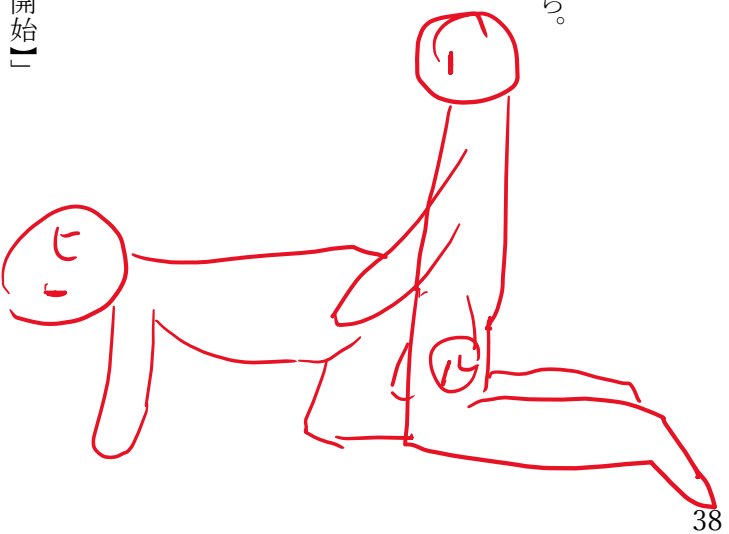
28 SE:体勢変える衣擦れ

29
30 【5】
31 ルミ「よごしよ……と。」
32

33 ふふ……お尻振って、期待して、かわいいなあ。
34 じゃあ思いつきり、突いてあげ、る【ピストン開始】
35

36 SE:肉を打つ音(いきなり激しく)

SE:水音



1 【5】
2 ルミ「あっはっは……！」
3 聞こえる？ 君の出したっ……愛液が……
4 ぐちよぐちよいって、うるさいくらい。
5 ずっと期待してたんだよね、自分で腰振るのじゃ足りなくて。
6 ふふ、僕が可愛がつてあげなくちゃ、満足することもできないなんて……
7 本当に、可愛い♡」
8

9
10 【ヒロインが絶頂】

11 ルミ「ああ、もういっちゃったの？
12 ダメだよ、やめてあげない
13 君が言ったんだ。夢も見ないくらい、深く眠りたいって。
14 だから、どれだけお願いしても、許してあげない。
15 だって、君が望んだことだからね。
16 ね？ 僕って、優しいご主人様だよね」
17

18 【吐息だけ30秒程度】
19

20 ルミ「やや切羽詰まって」ふふ、さつきからずっと、こえ、声止まらないね。
21 発情しきったッ……メスの声だ。
22 もっと聞かせて。
23 ほら、もっと鳴けよ、気持ちいいって、ルミ君大好きって。
24 頭ん中僕でいっぱいにして、このままぶっ壊れちゃえ。
25 はは、意識飛びそう？
26 いいよ、ほら、飛んじまえよ。
27 このまま本気イキして、気絶しろっ！
28 イけよ、イけ、イけ！ あ、ああ……！！ 【射精】
29

30 SE：射精

31 SE：ピストン終了

32
33 【ヒロイン気絶】
34
35
36

1 【5】
2 ルミ「はあ……はあ……」

3 【やや後悔して】ああく……ごめんね、最後ちょっと乱暴だったかな。
4 ん……？ なんだ、気絶してるのか」

6 【結合解いて、ヒロインの横に寝転がる】

8 SE:衣擦れ

10 【3 眠気と幸せを噛み締める】

11 ルミ「ベッドのいる暮らして、本当にいいなあ。

12 最初の頃はあんまり懐いてくれなくて不安だったけど、

13 最近はいっぱい甘えてくれるし……【あくび】

14 こうやってちよつとだけ手がかかるところも、

15 なんか嬉しいんだよね……」

16

17 ルミ「ふふ、可愛い寝顔。

18 これからもずーっと、幸せにしてあげるからね。

19 大好きだよ、僕のテラン……おやすみ【額にキス】」

20

21 SE:寝る姿勢に変わる衣擦れ

22

23 【寝息30秒程度お願いします】

24

25

